

外国人に、文化を語れる自分になる

# “茶の湯”を英語で、説明できますか？

日本を訪れる外国人の多くが関心を抱く、茶の湯。外国人と話す機会があるなら、英語で茶の湯を説明できるよう備えたい。単語から文章へと、ステップを踏みながらマスターしていこう。

文/本城さつき(p80)、江口裕之(p81~83) イラスト/中川原 透 協力/Dan Dumas

Adviser

通訳案内士・日本文化研究家

江口裕之さん

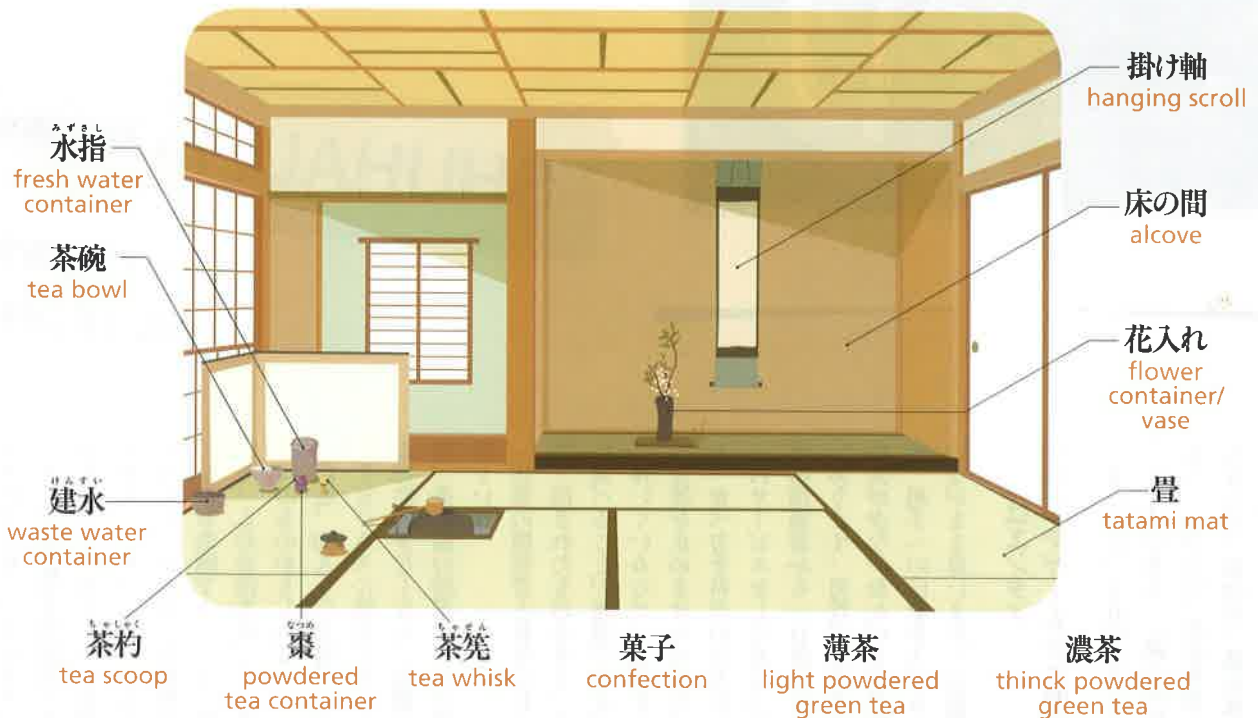
Eguchi Hiroyuki

1957年生まれ。CEL 英語ソリ  
ューションズ最高教育責任者。  
2009~13年NHK『トラッドジ  
ャパン』講師。著書に『新・英語  
で語る日本事情』(Dan Dumas  
共著/The Japan Times)、『ト  
ラッドジャパンのこころ』(長野  
真一共著/NHK出版)など。

## 空間や道具の名前を覚えよう

### 茶室

tea house



◆ 語力に自信があっても、「茶の湯とは？」と聞かれて即答できる人は少ないだろう。「茶の湯は、外国人が興味を持つ代表的な日本文化。何も言えないようでは、自国の文化を知らない教養のない人と思われてしまいます」と言うのは、通訳案内士の江口裕之さん。「まずは単語を知ることから始めて、短い例文を言えるようにしてください。茶碗は持ち手がないのでcupではなくてtea bowl、抹茶は粉状なのでpowdered green teaなど、実は英語のほうがシンプルかもしれない」。p.82~83では、もう少し踏み込んだ茶の湯の概念を説明できる例文を、江口さんが考案した。ここまで説明できれば、深いコミュニケーションができる。

日本文化は独特だと言いがちだが、それは違う、と江口さんは指摘する。「どの文化にも、そのなかにいる人にしか分からない『合理性』があります。英語で日本文化を説明するということは、西洋の論理に基づいて、日本人が暗黙のうちに了解している『合理性』を説明することなのです。

例えば、「おもてなし」を「hospitality」と対比させることで、特徴が明確になる。英語での説明を通じて、自分もまた日本文化への理解が深められるはずだ。

## 茶の湯の特徴について、文章で説明してみよう



● **The tea ceremony is the way to serve a bowl of tea to the guests.**

亭主が客を茶でもてなす場を茶会といいます。

● **The guests enter the tea house through a small entrance called the *nijiri-guchi*.**

茶会の客は、<sup>ひ</sup>躰り口という小さな入り口から茶室に入ります。

● **A decorative scroll hanging in the alcove is a sign of welcome.**

床の間の掛け軸は、歓迎の意を表します。

● **A sprig of *ume* blossom is in a vase beside the scroll.**

掛け軸の傍らの花入れに梅の枝が飾られています。

● **From these seasonal decorations, the guests can feel and appreciate the thought that the host has put into them.**

これらの季節に合わせたしつらいに、客は亭主の思いを感じ取ります。

● **Confections are served before the tea.**

茶の前に菓子が出されます。

● **Tasting sweetness before drinking the tea can accentuate the flavor of the tea.**

甘い菓子を口にした後で茶を飲むと、茶の味が引き立ちます。

● **The powdered green tea, *matcha*, is mixed with hot water.**

抹茶と湯を混ぜて茶を点てます。

● **A bamboo tea whisk called *chasen* is used.**

茶を点てるときには茶筌を使います。

● **A style of tea ceremony called *wabicha* was perfected by Sen-no-Rikyū, a tea master, in the late 16th century.**

千利休は、16世紀後半に「侘び茶」を確立しました。

# 茶の湯の概念を説明してみよう

What is *ichigo-ichie*?

「一期一会」とは何ですか？

*Ichigo-ichie* means “Treasure every encounter”. It is the primary teaching by Sen-no-Rikyu, the perfecter of the tea ceremony. The idea is that each encounter you experience is a very precious, once-in-a-lifetime opportunity. Therefore, you should appreciate and make the most of every encounter, doing your best to show your heartfelt hospitality.

【訳】

一期一会は「一つ一つの出会いを大切に下さい」という意味です。一期一会の精神は、茶の湯を大成させた千利休の最も大切な教えです。人が経験する出会いの一つ一つは、とても貴重な、一生に一度の出来事です。そのため、それぞれの出会いをじっくり味わい、最大限に大切に、相手をもてなすために、今できるすべてのことをやりましょうという教えです。

【解説】

treasure は名詞だと宝石や富を意味しますが、ここでは、動詞で

「～を尊ぶ」「～を大事にする」という意味で用いています。encounter は「出会い」の意味ですが、①における each encounter you experience には、人に対してだけでなく、自分の周囲にあるすべての環境に対する出会いも含まれています。Treasure every encounter. という表現は英語でも理解しやすく、茶の湯の席に限らず、すべての人間関係や周囲との接し方に共通する教えとして、西洋人にも印象深く受け取られることが多いようです。「一期一会」は、後に紹介する「おもてなし」の説明に欠かせない概念ですので、訳語を知っておくと役に立ちます。

Words & Phrases / 単語とフレーズ

primary : 最重要の / perfecter : 大成者、完成者 / precious : 貴重な / once-in-a-lifetime : 一生に一度の / make the most of ~ : ~を最大限大切に / heartfelt : 心からの

2

What is the difference between the afternoon tea in England and the tea ceremony in Japan?

英国のアフタヌーンティーと日本の茶の湯とはどう違いますか？

Their social and cultural significances resemble in that both are based on the association between the host and the guests appreciated through cultured communication, proper manners, and interior decorations and furnishings. However, the tea ceremony is also regarded as a form of self-discipline and places a great emphasis on spirituality. In addition, there are different formalities depending on which school of tea ceremony is followed.

【訳】

アフタヌーンティーと茶の湯は、知的コミュニケーション、礼儀作法、内装や調度品などを通じて深められる主人と客との交流である点において、社会的・文化的意義が類似しています。しかし、茶の湯は自己鍛錬の様式とも見なされ、精神性にも重きを置いています。加えて、茶道は流派によって作法が異なっています。

【解説】

類似点と相違点を対比できるように説明するのがポイントです。②の文に出てくる self-discipline とは「自己鍛錬」を意味しますが、

これは、武道や茶道、華道など、日本の「道」の概念を説明するのに便利な表現です。spirituality は、茶の湯の精神性を意味します。茶の湯になじみがない方には補足説明がないと分かりにくくはありますが、「侘び・寂び」や「一期一会」などの具体例を出せば理解できるはず。茶道がアフタヌーンティーと異なるもう一つの点は、茶道には流派があり、作法も流派ごとにやや異なるということです。流派は、英語で school や tradition と訳されることが多いようです。ここでは school を用いましたが、「学校」の意味で解釈されないように、follow(従う)という語を補って明確にしてあります。

Words & Phrases / 単語とフレーズ

significance : 意義 / resemble : ~に似ている / association : 親交 / cultured : 教養のある、文化的な / proper : 正しい / furnishings(pl.) : 調度品

## 「侘び・寂び」とは何ですか？

The concept of *wabi-sabi* is an important feature of beauty in Japanese thinking. *Wabi* refers to an aesthetic ideal created through deliberate simplicity in both art and life. The idea is that only by recognizing that nothing is perfect, can one fully recognize beauty in art and life. *Sabi* refers to an aesthetic ideal created through appreciation of the old and faded. It is similar to a patina in an English sense, which increases as things or people age.

## 【訳】

侘び・寂びは日本人の美意識の重要な特徴の一つです。侘びは、芸術および生活において、意図的な簡素さを通じて達成される美の境地です。世の中に完璧なものは何一つないということを悟り得て初めて、芸術や生活のなかにある美を十分に理解できる、という考えです。寂びは、古くて寂れたものの価値を理解することを通じて達成される美の境地です。寂びは、物や人が年を重ねるにつれて増していく「風格」を意味する、英語の patina (趣) と感覚が似ています。

## 【解説】

日本文化は「逆説の文化」と呼ばれることがありますが、それは、日本人が物事を見方によって白とも黒とも判断する傾向があるのが一因です。つまり、日本では調和して共存している概念が、西洋で相反する概念として理解されることが多々あり、侘び・寂びは、その

一例だといえます。そのような概念の説明では論理性が大切になります。侘び・寂びは、一体のものとして説明されることが多いのですが、ここでは両者の意味を分けて説明してみました。まず、侘びですが、岡倉天心は『茶の本』で茶道 (Teism) を a worship of the Imperfect と呼んでいます。④では、その発想をベースにして説明していますが、観点を変えて The idea is that when all the embellishments including wealth and vanity are removed, the intrinsic beauty is revealed. (富や見栄などのすべての飾りが取り除かれたとき、本質的な美が表に出るという考えです) としてもいいかもしれません。寂びは、英語の patina という感覚が近く、実際に「寂び」の訳語として用いられることがあります。patina は、器具などが使い込まれたときに出る「艶」を意味し、転じて、時とともに増していく風格や趣などを意味します。

## Words &amp; Phrases / 単語とフレーズ

aesthetic ideal : 美の境地 / deliberate : 意図的な / simplicity : 簡素さ / appreciation : 真価を知ること / the faded : 古びたもの / patina : 風格、品、趣 / age : 年を取る、古くなる

## 「おもてなし」とは何ですか？

“*Omotenashi*” refers to the Japanese way of showing hospitality, where the host tries to entertain the guest using all possible means, while the guest leaves everything up to the host. It is a form of indirect communication, in which both the host and the guests work together on an equal footing, showing courtesy to each other. The idea is well reflected in the spirit of the tea ceremony.

## 【訳】

「おもてなし」とは、日本式のホスピタリティの表し方です。主人はあらゆる方法でもって客をもてなそうとする一方、客はすべてを主人にお任せします。おもてなしは、主人と客の双方が平等な立場でお互いへの崇敬の念を表しながら協力して作り出す、一種の間接的なコミュニケーションなのです。この理念は茶の湯の精神によく表れています。

## 【解説】

「おもてなし」はよく hospitality という英語に訳されますが、若干ニュアンスが異なります。hospitality では客の希望をかなえることが大切です。それに対し、「おもてなし」では客は主人に何かを求

めることはせず、主人にすべてを任せます。その際、主人は客の目線から最高の満足を提供できるように万事の手配をする一方、客は主人の気配りの一つ一つを敏感に察知し、感謝の気持ちを表します (④)。つまり「おもてなし」は、客と主人の間における崇敬の念と信頼関係に基づく心のやり取り、といえるでしょう。この精神は日本文化のさまざまな分野で見られます。例えば、西洋のホテルのサービスが hospitality の概念に基づくとすれば、日本の旅館でのサービスは「おもてなし」に基づきます。また、外国人に食事に誘われた日本人が何を食べたいかと問われ、「お任せします」と答えて外国人を困らせることがよくありますが、この対応も「おもてなし」の概念から来ていると考えられます。

## Words &amp; Phrases / 単語とフレーズ

leave~ up to... : ~を…に任せる / indirect : 間接的な / on an equal footing : 同じ立場で / courtesy : 礼節、礼儀

英語で書かれた日本文化の3大名著の一つ

# 岡倉天心『茶の本』を 英語で読む

明治末期、西欧社会に向けて執筆された「茶の本」。英文特有の論理的な表現で、茶道の精神世界が語られている。一度は原文で味わってみたい。

文/竹下順子

『茶の本』(原題: The Book of Tea)がニューヨークで出版されたのは1906年。当時、ボストン美術館に勤務していた岡倉天心が英語で執筆した。同じ頃に刊行された新渡戸稲造著の『武士道』、鈴木大拙著の『禅と日本文化』とともに、日本の伝統文化を西欧に紹介した3大名著として、今も読み継がれている。

明治末期は、日露戦争で勝利し

## THE BOOK OF TEA

Tea began as a medicine and grew into a beverage. In China, in the eighth century, it entered the realm of poetry as one of the polite amusements. The fifteenth century saw Japan ennoble it into a religion of aestheticism,—Teaism. Teaism is a cult founded on the adoration of the beautiful among the sordid facts of everyday existence. It inculcates purity and harmony, the mystery of mutual charity, the romanticism of the social order. **It is essentially a worship of the Imperfect, as it is a tender attempt to accomplish something possible in this impossible thing we know as life.**

## 第1節の冒頭

### Words & Phrases / 単語とフレーズ

**medicine**: 薬 / **beverage**: 飲み物 / **realm of poetry**: 詩の世界 / **polite**: 上品な、教養のある / **amusements**: 楽しみ、娯楽 / **ennoble**: 気高くする、高尚にする / **religion**: 宗教、信仰 / **aestheticism**: 唯美主義 / **cult**: 崇拜、礼賛 / **adoration**: 敬愛、憧れ / **sordid**: みすぼらしい、むさくしい / **existence**: 生活、存在 / **inculcate**: 教え込む、説き聞かせる / **purity**: 純粋さ / **mutual**: 相互の、共通の / **charity**: 博愛、慈悲心、思いやり / **essentially**: 本来、本質的に / **worship**: 崇拜、尊敬、敬う心 / **the Imperfect**: 不完全なもの / **tender**: 優しい、柔らかい / **attempt**: 試み、企て、努力 / **accomplish**: 成し遂げる、果たす、完成する

ここに注目!

茶の湯の基本を、“the Imperfect”、という言葉を用いて「不完全なものを崇拜することにある」と簡潔な英文で表現した一節。抽象的な概念を、英文ならではの論理的で的確に解説している。冒頭にふさわしい文章であり、言葉の使い方にも高いセンスが感じられる。

(訳)茶は薬用として始まり後飲料となる。シナにおいては八世紀に高雅な遊びの一つとして詩歌の域に達した。十五世紀に至り日本はこれを高めて一種の審美的宗教、すなわち茶道にまで進めた。茶道は日常生活の俗事の中に存する美しきものを崇拜することに基づく一種の儀式であって、純粋と調和、相互愛の神秘、社会秩序のローマン主義を諍々と教えるものである。茶道の要義は「不完全なもの」を崇拜することにある。いわゆる人生というこの不可解なものの中に、何か可能なものを成就しようとするやさしい企てであるから。〔「茶の本」岡倉覚三著 村岡博訳(1929年発行)より抜粋。左ページも同様。岡倉覚三は天心の本名〕

Adviser  
通訳案内士・日本文化研究家  
江口裕之さん  
Eguchi Hiroyuki

→p80



写真: 首藤光一/アフロ

た日本の国威が台頭した時代。「それまでの日本のイメージから脱却すべく、伝統文化を積極的に海外へ発信する機運が高まっていたのではないかと」と、『新・英語で語る日本事情』などの著書がある江口裕之さんは推察する。

日本美術の救世主といわれる米国の美術研究家、アーネスト・F・フェノロサとともに、伝統文化の価値を再評価する活動をした岡倉天心。『茶の本』では茶道を単なるtea ceremonyではなく、Teasimと表現した。

「同書は英語として非常に名文です。抽象的な茶道の概念は、和訳よりもむしろ原文をそのまま味わうほうが、理解しやすい面もある。かなり難解なので、すべて原文で読み解くには相当の英語力を要しますが、第1節だけでも原文に当たってみると、茶の湯への理解が新たなものになるでしょう」。

## THE BOOK OF TEA

The heaven of modern humanity is indeed shattered in the Cyclopean struggle for wealth and power. The world is groping in the shadow of egotism and vulgarity. Knowledge is bought through a bad conscience, benevolence practiced for the sake of utility. The East and the West, like two dragons tossed in a sea of ferment, in vain strive to regain the jewel of life. We need a Niuka [Nü Wa] again to repair the grand devastation; we await the great Avatar. **Meanwhile, let us have a sip of tea. The afternoon glow is brightening the bamboos, the fountains are bubbling with delight, the souging of the pines is heard in our kettle. Let us dream of evanescence, and linger in the beautiful foolishness of things.**

(訳)現代の人道の天空は、富と権力を得んと争う莫大な努力によって全く粉碎せられている。世は利己、俗悪の闇に迷っている。知識は心によましいことをして得られ、仁は実利のために行なわれている。東西両洋は、立ち騒ぐ海に投げ入れられた二竜のごとく、人生の宝玉を得ようとすれどそのかいもない。この大荒廃を繕うために再び女媧を必要とする。われわれは大権化の出現を待つ。まあ、茶でも一口すすろうではないか。明るい午後の日は竹林にはえ、泉水はうれしげな音をたて、松籟はわが茶釜に聞こえている。はかないことを夢に見て、美しい取りとめのないことをあれやこれやと考えようではないか。

## 第1節の最終段落

### Words & Phrases / 単語とフレーズ

**humanity**: 人間性 / **indeed**: 実に / **shattered**: 損なわれた / **Cyclopean**: 巨大な / **struggle**: 苦闘 / **wealth**: 富 / **groping**: 手探りする / **egotism**: 利己主義 / **vulgarity**: 俗悪、不作法な言動 / **conscience**: 誠実さ / **benevolence**: 慈善、善行 / **practiced**: 実行した / **for the sake of**: ~のために / **utility**: 実利 / **The East and the West**: 東洋と西洋 / **tossed in**: 投げ込まれた / **ferment**: 混乱、興奮 / **in vain**: 無駄に / **strive**: 努力する / **regain**: 取り戻す / **jewel**: 宝、大切なもの / **Niuka**: 女媧、女神 / **repair**: 復興させる / **devastation**: 荒廃 / **Avatar**: (神の)化身 / **a sip of tea**: 茶をすする / **brightening**: 輝かせる / **bamboos**: 竹やぶ / **fountains**: 泉 / **souging**: ザワザワと音を立てる / **pin**: 松 / **kettle**: やかん、茶釜 / **evanescence**: はかなさ / **linger**: (物思いなどに)いつまでもふける

ここに注目!

哲学的世界にまで踏み込み、壮大に展開してきた章の最後に「一服のお茶をすすろうではないか」と、再びお茶へと帰結する文章の巧みさ、面白さ。竹林の輝きや、泉のささやかな水音に侘びを感じ、日常生活の俗事のなかに存する美しきものを味わおうと結んでいる。